



最近思うこと

日本大学工学部教授

森 芳 信

○学生について

昭和48年に日本大学に赴任した頃、日本大学の学生は人なつっこいなと思ったが、前任大学の学生と学生気質が特に違っているとは感じられなかった。しかしこの20年余で同じ日本大学の学生の気質が随分変わってきたように思われる。

最近の学生は努力をしないで結果だけは多くを望む。また先頭に立って物事を始めるバイタリティのある者が少ない。例えば、20年前は今よりかなり学生数が多かったにもかかわらず、学生達が自主的に卒業アルバムを作成していたが、現在では教員が全部やらないとまず無理である。

最近の男子学生は少子家族のため長男の者が多い。長男には長男の性格があるらしく、これが一因かと思われるが同じような性格の者が多い。機械の歯車で言えば同じような大きさの歯車ばかりで、これらの集合体はスムーズな動きをしない。昔のように次男、三男が多くいて、いろいろな大きさの歯車が組み合わさると全体がスムーズに機能する。日本の将来がこの点でも心配である。

○会議について

出張での会議を含め、このところ殆ど毎日といってよいくらい会議がある。会議のなかには自分が出席していなくとも何の支障もないと思われるものも多くある。検討のための会議ではなく承認のための会議であったり、意見を述べても無駄と始めから予想されるものなどである。前者の承認のための会議には議決成立のための人数が必要であるから全く無駄とは言えないが、自分が出席していなくとも変わらないであろうと思うと無駄な時間を費やしたという感じがする。

会議で建設的な意見を述べる人もいるが、無駄に会議を延ばす人、現実を無視して理想的なことばかり言う人など様々である。実際に仕事をする人は努力によってどこまでのことができるかを弁えているので、無駄に理想的なことは言わない。自分で仕事をしない者

ほど文句をつける。

長時間の会議は正確な判断を損なう。会議は長くとも2時間以内とし、それでもまとまらない時には一度時間をおくほうが良いだろう。20人の会議で1時間無駄に費やすと20時間の浪費になる。たとえ10分程といえども遅刻をして会議の開始を遅らせるのは人数分を考えると大きな問題である。自分の時間をどのように使おうとも勝手だが、他人の限られた時間を費やす権利はない。

○歳にとって

以前から記憶力が悪かったが、最近ますます悪くなってきた。少し前の自分の日記を見ても全く覚えにないことがあるし、昨日の夕食のおかずが何だったのかもすぐには思い出せない。一昔前の国会喚問での「記憶にございません」のセリフには白々しい思いをしたが、昨日のこともよく覚えていないのだから「記憶にございません」も当然かとも思う。今のところ晩ご飯のおかず程度であまり問題はないが、これからが心配である。家内が私のボケを最も恐れているが、夫婦二人のこれからのことを考えると、先にボケた方が勝ちかとも思う。家内はボケても面倒見てくれると言うが、ボケてからでは有難みがわからないので、今のうちによく面倒見てもらいたいと思っている。

○兵庫県南部地震について

これまで多くの地震被害調査を行ってきたが、兵庫県南部地震の被害調査ではこれまでとはかなり異なった印象を受けた。個人的には娘が西宮に住んでいることや、私自身が関西出身で被害地域が身近なものであったこともその一因であるが、被災地での周囲の雰囲気はこれまでとは全く異なっていた。これまでの被害調査では被害個所が広範囲に連続していることは少なく、被害個所で写真を撮ったり、土を採取することにそれほど抵抗感がなかったが、今回は周りの殆どの人達が被害を受けている状態であったので、その中で写真を撮るのはある種の後ろめたさを感じた。

被害については、かなり多くのものはこれまでの地震被害と同様に、人間の生活圏拡大の影響を受けていた。すなわち、海岸側への埋立てにより拡大造成されたポートアイランドなどでの液状化による被害や山側での宅地造成地での被害はもちろんであるが、平野部でも昔からあった溜池などの埋立てによる造成地で多くの被害を受けていた。平野部では水田の埋立て地や旧河床などの影響も見られる。地盤の深い位置での地層構造も大事であるが、もっと大事なものは最も調べやすい地表層である。